

平成30年度 第1回我孫子市総合教育会議概要

- 件名／平成30年度 第1回我孫子市総合教育会議
- 日時／平成30年7月24日（火）16：00～17：40
- 場所／教育委員会 大会議室
- 出席者／星野市長、倉部教育長、豊島教育委員、長谷川教育委員、足立教育委員、蒲田教育委員・丸教育総務部長、木下生涯学習部長
（総務課）森田課長、星野主査長
（学校教育課）榊原課長、藤岡主幹
（指導課）羽場課長、戸塚課長補佐、桃井指導主事
（教育研究所）土山所長
（生涯学習課）菊地次長
（図書館）櫻井館長、穉村館長補佐
（秘書広報課）飯田参事、高見澤主幹
- 傍聴人／0名
- 協議・調整事項
 1. 学校職員の働き方改革について
 2. 市民図書館と学校図書館との連携について

【学校職員の働き方改革について】

平成30年7月5日に開催された「第1回我孫子市立小中学校職員働き方改革推進委員会」の概要について、教育委員会学校教育課から報告を行った。

【意見交換】

（部活動ガイドラインについて）

- ・子どもたちは、各種大会を目標に一生懸命部活動に取り組んでいる。活動が制限されることで、子どもたちの気持ちに影響が出ないか心配である。
- ・部活動の制限によって、休みが多くなり、学校以外で集まる機会が増えることで生活面に影響が出ないのか少し不安がある。
- ・大切なことは、子どもたちがやるべき時はしっかりやるという考え方をもち、オンとオフの気持ちの切り替えがきちんとできるように、導いてあげることが重要である。
- ・子どもたちから部活動に対する意見を聞いてあげることも必要である。
- ・教職員の不足が気になっているが、現場の状況に問題はないのか。

- ・部活動のやり方はそれぞれ異なると思うが、子どもたちのために教員も部活動のあり方を理解し、活動していくことが大事だと思う。
- ・子どもたちと一緒にあって、子どもたちのために活動したいという教員もいるので、そのところは理解してあげたい。
- ・部活動の時間を制限しても、常に家に帰ることがすべてではないと思う。例えば午前中が部活動であれば、午後は学校のパソコン教室や図書室を開放するなどして、子どもたちに活用してもらうなどの指導も必要ではないか。
- ・顧問の役割にある技術指導や管理面を減らしていくことを考えなければいけないと思う。役割が少しでも軽減されるよう地域の方や関係機関と連携し、支援いただくことも大切である。

【市民図書館と学校図書館との連携について】

図書館から「子どもの読書活動推進計画について」、指導課から「学校図書館活用推進事業について」それぞれ概要の説明を行った。

【意見交換】

- ・重点校（湖北台中学校・布佐中学校）の目標はどうあるのか。
- ・子どもの読書活動推進計画の策定にあたって対象を0歳から18歳までの子どもとしているが、0歳から1歳児は、まだ本を読めない。現在実施している読み聞かせなどの各事業との切り分けを上手く行い、事業を進めてほしい。
- ・活用されていない学校図書館がでないよう、教育委員会でしっかりとした計画を立てるなど工夫が必要である。
- ・書物は増える一方で、IT化が進み図書館の利用も減っているのではないか。職員を増やすなどして対応を充実させることはできないか。
- ・どのくらいの頻度で子どもたちは、本を借りているのか。
- ・各小中学校には、一定の基準で本を配置する必要がある。本の集め方や活用の方法を検討する必要がある。